

令和7年度 管内公立小中学校事務研修会

南予教育事務所
R8.1.6(火)

学校事務の実践的な研修を実施することにより、事務職員等の資質向上を図り、学校教育の充実に資することを目的に、去る11月19日(水)南予地方局7階大会議室他にて、今年度も管内公立小中学校事務研修会を実施しました。

開会挨拶では、南予教育事務所長から、本日の研修と事務職員の役割に対してエールが送られました。

- ・ 自己肯定感を高め、学校運営にしっかり携わる。
- ・ 『愛媛県公立学校事務職員育成指標』に基づき、キャリアステージを意識した積極的な学びと育成の支援を。
- ・ 組織力・同僚性を高める。～「コミュニケーション」と「思いやり」がキーワード～
- ・ 心身の健康こそが、健全な職務のベースとなる。



以下、全体会・分科会の様子と参会者の意見をまとめましたのでご覧ください。

1 全体会

テーマ「地球温暖化対策について学び・考え・行動しよう！」

講師 温暖化防止活動推進センター 主任 山中 三沙貴 氏

地球温暖化が及ぼす影響と行政や事業者・個人の責務について学び、地球温暖化対策について学校事務職員としてできること、すべきことについて主体的に考え協働することで、持続可能な社会の構築と持続可能な教育環境の実現に貢献できる資質を養うことを目的に講話をいただきました。

具体的な数値や根拠を示したうえで、脱炭素ドミノを倒すためにわたしたちができることとして

- 1.まずは自分から(自分が起点)
- 2.身近な人と一緒に(国や県・市町が目指していることにも注目)
- 3.小さく始めて、大きなアクションへ(1人の100歩より、100人の1歩)

などお話いただいたフレーズひとつひとつは、私たちの心に直接語り掛けていただいた気がします。大切な未来のために、教育機関に勤めるものとして、小さな取組を結集し大きな



うねりにつながるよう取り組んでいきたいと思います。

【参会者の声】

園 「無関心でいられても無関係ではいけない」という言葉に刺激を受けた。

園 節減の意識を持って、空調と照明の使用方法を工夫して節電をしていきたい。

園 日常業務の中で環境負荷を抑える工夫を継続していきたい。出張の移動手段の選択(公共交通機関利用、自家用車同乗)も一つ。

園 「直し方がわからないものを壊すのは辞めてください」というスピーチの一節に納得

園 空調、照明、教材・教具といった子どもの学びの場を構成するファシリティを切り口に、教育目標の達成に向けてどのようなルールを敷き、教職員と共有し遵守に努めるか、マネジメントの方向性を予算委員会などの場で管理職と協議したい。

園 ゼロカーボンシティ宣言自治体である、県職員として自覚をもって取り組みたい。

園 「水道の開閉状況の確認」を通じて、水道使用料の削減や修繕箇所の提案・相談、水道使用時の啓発も考えられる。「照明利用時間を削減する」ことを意識すると、節電意識の向上、啓発、超過勤務時間削減や自身の働き方への意識付けにもつながる。何かのきっかけや意識を持って行動することで、いろいろな気付きや解決のヒントにつながるのでは。

2 分科会

(1)第1分科会【実務研修】 基本を固めよう！2025 ～所得税・住民税について～



今年度は、「税金」(所得税・住民税)をテーマとして、基礎知識から実践的知識まで幅広く取り上げ、事例に基づいた具体的説明とグループ別演習により、知識の定着を図りました。物価高対策として税制の見直しが行われたタイミングであり、タイムリーな研修となりました。

【参会者の声】

園 何となくで理解していた控除額や税率の仕組みを体系的に理解することができました。

園 先生方の対応や事務処理の際に誤りのない説明や手続きができるよう、今回の学びを業務に確実に生かしていきたい。

園 この機会に税金に関する本を一冊読み、先生に自信をもって回答できることを増やしたい。

園 学習した内容を事務室内でレクチャーする「ミニ研修」にチャレンジすることで、知識の定着・活用を図りたい。

園 式や言葉の意味を考えながら復習することで、より理解が深まった。研修の中で「数字だけ入力すれば、システムが自動で計算をしてくれるかもしれないが、事務職員としてしっかりと仕組みを理解しておくことが重要である」という言葉が印象的だった。

(2)第2分科会【実務研修】 「定年前の先生からの“あるある質問”に備えよう！」

～60歳以降の働き方と事務処理の基本を押さえる～



教職員からも比較的質問を受けることが多いこのテーマ。60歳以降の人事、服務に焦点を当て、演習、協議を行いました。ライフプランそのものに直結することだけに、知識の正確性の向上はもちろん、わかりやすく情報を提供するノウハウについても学びました。

【参会者の声】

- 雇用形態の複雑さを改めて実感し、それに伴う事務処理や教職員の対応をするための知識を深化させることの重要性を感じた。
- 60歳を迎える教職員に、どのような勤務形態があるのか、給与や服務がどのように変わるのかについて、単に知らせるだけでなく、健康や生活のバランスを考慮した働きやすい環境づくりについても考え教職員と連携しながら、実際にその環境を整えるための取り組みを進めていきたい。
- 研修会の翌日、構成校訪問時に一人の先生から、「60歳のタイミングで退職した後の再任用での働き方」について質問を受け、正しい知識をもって返答することができた。

(3)第3分科会【実践発表】 ジョブ・クラフティング！！ ～働き甲斐を高めるコツ～

自らの働き甲斐を高める手法としての「ジョブクラフティング」(自らの仕事の内容・人間関係・捉え方の再構築)を取り上げ、ワークショップやワークエンゲージメント推進の実践発表(西予東共同学校事務室)により、学校事務職員としての働き甲斐や満足度の高い働き方について一人一人が考えることで、自身の成長と共同学校事務室全体の活性化につなげるための有意義な時間となりました。



【参会者の声】

- 情性で処理するのではなく、責任感をもって最後までやり遂げる姿勢を大切にしようと、気持ちを新たにしました。
- 班の中で自身が困難を抱えているために周囲に迷惑をかけていると悩んでいる方に、寄り添った言葉掛けをされている場面に出会った。私も、相手に合わせた言葉掛けができるようにならなければと強く感じた。
- 一人でやるよりも、周りの人とコミュニケーションをとって進めた方が断然、アイデアは浮か

ぶし、協力できるし、達成感やモチベーションも上がるということに気づいた。若いとか経験年数があるとか関係なく、意見やアイデアはそれぞれが持っているものなので、どんな職場でもコミュニケーションは欠かせないものであることを(改めて)強く感じた。

今年度も共同学校事務室ごとに振り返り行い、貴重な意見をありがとうございました。他にも良い意見をたくさんいただきました。次年度に生かしていきたいと思います。

【参会者の声】

園 挨拶の中で「キャリア指標を参考に、次につなげる研修」や「自分起点で積極的に、自分のために学ぶ」との言葉もあり、常に学び続ける意識を大切にしたいと思った。



最後に、各共同学校事務室で行った振り返りでの地域長からのアドバイスを紹介します。(抜粋)

【組織での振り返りより】

園 学びをどう生かすかを具体的かつ現実的に考えることが十分ではなかったため、行動宣言だけで終わらせないように、今の自分には何ができるかを自分の言葉で言えるまで対話を行った。自分の学びとしてほしい。

園 (分科会役員が在籍する事務室) 分科会運営への準備、当日の活躍を直接見ることが他の室員にとって、良い刺激になったこと、また、本人も前向きに役割を担い、能力を発揮できたことが大きな収穫である。このことを対話の中で取り上げ、次のキャリアステージに対する意識、関心度を確認した。今とは異なる環境、立場になったときに対応できるだけの人間力を持てるよう、イメージを持ち、引き続き自己を高めてほしい。

園 一人一人が目標に向かって行動できる自律的な組織づくりのためにも実践を重ねていくことを大切に。記入してもらった具体的に組みたいと考えていることの実践を。具体的な行動に移し共有することで、成果や課題が明確になり、個々の成長につながることを期待したい。

園 コミュニケーションスキルの中で最も重要なスキルのひとつ「聴く」スキルについての資質向上を図り、少し「聴くこと」に意識を向けるだけでも、室員に安心感を与え、関係をよりよい方向へ変化させることができることを説明した。業務の進捗状況確認や勤務時間終了時の声掛けをし、働きやすさと働きがい大切に職場(事務室)づくりに努める。

(文責:石野 学)